

人間発達学科人間基礎学専攻 主要科目の特長

【日本語文法】

この授業では、中高で学習した国文法（学校文法）をより深く理解するため、その成り立ちやしくみ、問題点を学ぶ。また、学校文法への理解を深める中で、日本語のしくみや変化についての知識を身に付けることを目的としている。また、授業では身に付けた知識を活用して、中高生が文法を学ぶ際に活用できる教材作成も行う。教材作成は数人のグループで実施しており、この活動を通して、学校文法に関する知識の定着を図るとともにコミュニケーション力や課題解決力を身に付けることを目的としている。

【国語科教育法Ⅰ～Ⅳ】

国語科教員に必要な国語の知識、授業力、コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。国語科教員として理解しておくべき、国語の授業の知識や技術（発問、板書、発声や話し方・聴き方、机間指導、授業の組み立て等）について、模擬授業を通して習熟させる。また、新学習指導要領および解説編の記載事項を踏まえて国語教育の意義と目的、国語科の科目の内容等について理解し、国語科教員としての資質・技能の向上を図る。

【日本近現代文学史Ⅱ】

活字離れ、本離れが嘆かれて久しいが、最近は漫画でさえ活字の入ったものは読まれなくなってきた。わかりやすさは日本語表現の重要な課題であるが、それはあくまで書き手の技術の問題であり、読解力は表現力の基礎となる。日本近現代文学の流れをたどりつつ、明治・大正・昭和・平成といった各時代の文学作品に表れた特色について講義する。さまざまな作品に実際触れることで日本近現代文学の魅力に気づき、文学作品を読み込む読解力を養成する。

【楷書法Ⅱ】

国語・書道コースの書道に関する講座のなかで、創作に重点を置く最初の講義である。古典に対して緻密な分析と臨書を行いながら、大学における書学の学習方法と楷書の基本的な技術を習得した上で、確かな創作力を養成する。さらに、本講義で学習した創作方法の基礎を、他の書体における創作にも応用できることを視野にいれている。

【教職概論】

教育職員である教師にとって必要な基礎的・入門的な内容である。教職の意義や教師の役割、教師の仕事内容についての理解を深め、自分自身の教職への意欲、適正についても考える。具体的には、現在の教員に求められている資質能力および資質向上のための研鑽や研修、教員養成の歴史、学校の教育・指導の内容、学校を中心とした職場環境等について理解し、教職への情熱と使命感を喚起することを目指している。

【心理学概論】

心理学の基礎をできるだけ広範囲に学ぶことが目的である。まず、心理学の諸領域と歴史的背景、研究方法について学ぶ。その後、行動の生物学的側面、行動の変容や知識獲得に関する学習の側面、ストレスと情動、知覚と感覚、認知、記憶と忘却、パーソナリティの形成と知能、臨床心理学の基礎など、歴史的背景に触れながら理論的変遷も含めて学ぶ。心を科学的視点から捉えた心理学の基礎内容を理解できるようになり、人間の行動に影響を与える要素について説明できるようになる。

【心理学実験Ⅰ】

心理学実験実習Ⅰでは、知覚、運動、学習、記憶、行動に関する基本的な実験を行い、様々な心理学の測定法について学習する。具体的には、各テーマの担当者の指導の下、小グループで実験実習を行い、テーマ毎に、内容説明、実験の実施が行われる。また、心理学実験のすすめ方（教示の実際）、データ整理や資料収集・整理・結果の解析、研究書の作成、研究上のモラル・倫理の問題等を、実践を通して学習する。

【心理演習】

心理療法には多様な理論と方法があるが、本授業では、実際の援助場面で活用頻度が高い心理療法の基本的な技法を学ぶ。基礎となる積極的傾聴、描画療法、認知療法、箱庭療法などを演習形式で体験的に学習する。学校・病院・産業・福祉などの臨床現場のみでなく、社会人としてのコミュニケーション・スキルとして知識を身につけ、活用できることを狙う。

【知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）】

知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）では、ひとの認知機能に関わるテーマについて基礎的、応用的観点から議論する。テーマとしては、注意、記憶、思考を始めとして、感情との関わりや加齢による影響などの関わりについて考察し、その問題の所在や支援をするための可能性について検討する。単なる専門的な知識を獲得するだけでなく、教育や産業においてどのように知識を活用するかについて学ぶことを目指す。

【健康・医療心理学】

健康・医療心理学では、人間の心身に関する問題を総合的に扱う。「健康」や「ストレス」の概念と、ストレスが心身に与える影響と必要な対処に加え、身近な心身の疾病に対する適切な対応につながる知識を身につけるため、がんやうつ病についての症状や診断基準などを説明する。さらに、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援や、保健活動が行われる現場における心理社会的課題及び必要な支援、災害時等に必要な心理に関する支援について概説する。

【情報サービス論】

現代社会における情報ニーズに対応し、将来の発展を見据える能力を養成する。また、情報サービスに関する現象や事実に通じる原理を理解する。本授業は理論的な知識だけではなく、「情報サービス演習」につなげる実践（実務）的な技術についても理解を深め、専門職としての技能（キャリア）形成を行う。また、授業内においてグループディスカッションを取り入れ、他者からの情報収集・分析・発信ができるような形式を取り込み基礎力の養成を行う。

【情報科学概論】

情報の基礎概念とコンピュータの基本的仕組みについて学習する。デジタルとアナログの違いやハードウェアとソフトウェアさらにオペレーティングシステムの概念について理解し、様々な活用法についての知識を習得する。LAN やインターネット、通信技術の基礎的理解から WWW や電子メールによる実際の活用について学習し、コンピュータの動作原理を理解し、情報科学の基礎的理解を深める。

【情報ネットワーク】

情報通信技術の進歩により情報ネットワークは、さまざまな分野で利用されている。情報ネットワークの形態は有線ネットワークから無線ネットワークと変化し、利用が進んでいる。サービスの面で多様なサービスが存在している。これらを可能としている情報ネットワークの原理を学び、情報ネットワークによって実現したさまざまなサービスについて学習する。また、ネットワーク上でさまざまなサービスが利用できるようになり、不正行為を防ぐ為のセキュリティについて学習する。

【情報処理技術】

コンピュータ技術の進歩により高度な情報処理が可能となっている。コンピュータの動作原理の理解を通して、コンピュータにより情報処理がどのように行われているかを理解する。コンピュータシステムとしてパーソナルコンピュータを取り上げ、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム、アプリケーションなどについて学習し、それらが連携してコンピュータシステムが構築されていることを学び、パーソナルコンピュータによる情報処理技術を学習する。